



トヨタの燃料電池車 (FCV) の市販が、いよいよ始まる。90年代にハイブリッド車 (HV) を世界で初めて量産化し普及をけん引してきたトヨタ。FCVも世界に先駆けて発売し、自動車産業の歴史に新たな一歩を刻む。

FCVは水素と空気をから取り込む酸素を化学反応させて得た電気エネルギーを駆動させて走る。走行時に排出されるのは水だけだ。そのため「究極のエコカー」とも言われ、次世代エコカーの本命に目されている。

トヨタがFCVの開発を始めたのは92年。02年には今市販するセダンタイプではなくスポーツタイプのFCVを日米で限定

豊田社長はラリーでFCVをPR

# 好業績「稼ぐ力」着実に

## トヨタ、当期益2兆円 15年3月期

トヨタ自動車の2015年3月期連結業績(米国会計基準)の当期純利益は、初めて2兆円に到達する見通しだ。08年秋のリーマン・ショック後に進めた構造改革の成果があらわれ、北米の販売増や円安効果も加わった。空前の好業績をたたき出すトヨタは、14年度下期について部品メーカーに対する部品価格引き下げ要請を見送る。愛知県を中心とした2次、3次の部品メーカーへの影響が注目される。

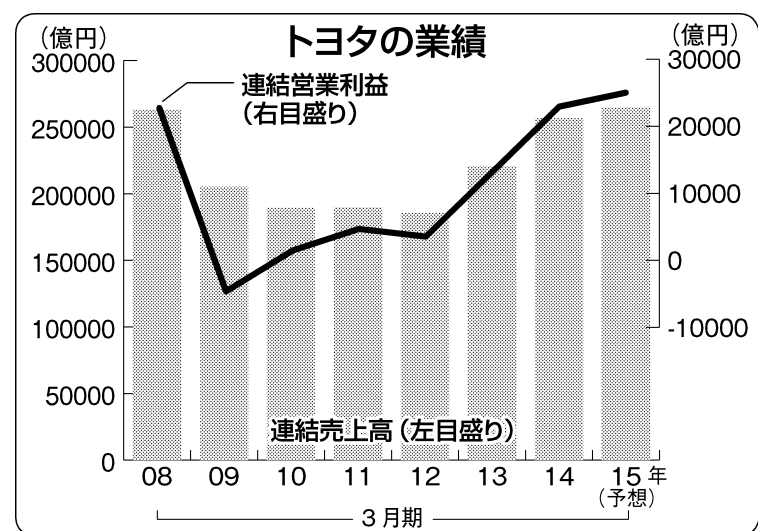
「円安(効果)に原価改善や販売面の努力などが合わさった数字だ」。小平信因トヨタ副社長は15年3月期業績予想を上方修正した要因について、こう強調した。

確かに為替の影響は大きい。1円円安に振れた時のトヨタの営業利益押し上げ効果は対ドルで年間約400億円、対ユーロで約40億円、15年3月期の営業利益を5月公表値比2000億円増の2兆5000億円(前期比9・1%増)と上方修正したが、そのうち為替影響は1350億円だ。しかし、それだけでは

## 次世代エコカーFCV市販



15年3月期業績予想の上方修正を発表する小平副社長



15年3月期は「意志のある走り場」と位置づけている。工場稼働率は09年時点では7割程度にとどまっていたが現在は「9割く」(同)という規模よりも効率を追求した結果が

事実、グローバルの平均工場稼働率は09年時点では7割程度にとどまっていたが現在は「9割く」(同)という規模よりも効率を追求した結果が

業績となつてあらわれ、2次、3次(の部品メーカー)にも値下げのしなやかさ。トヨタは取引先部品メーカーに、「この要請した上で14年度下期(10月、15年3月)の部品価格引き下げを見送った。トヨタと部品各社は1年に2回、部品の価格改定を交渉しており、一律で値下げ要求を見送ったのは異例のことだ。これは円安がむしろデメリットとなっている2次以下の中小企業に注目がされる。

## 意のままに走れるクルマ

販売した。それ以降、段階的に性能向上とコスト低減に取り組んできた。モーター、バッテリー、パワーコントロールユニットといった、培ってきたHV技術をベースにFCVの開発を進めた。市販化の一番のネックとされていたFCVユニットのコストは08年時点に比べ20分の1以下にまで低減した。

「これからのクルマはエコは当たり前で気持ちよく爽快に走るクルマでなければならぬ」(加藤光久副社長)と走りにもこだわった。主要ユニットを小型化によってすべて床下に配置したことで低重心を実現し、「前輪駆動車らしくない、意のままに走れるクルマに仕上がったと自負している」(田中義和製品企画本部ZF主査)と

## 4大都市圏周辺で販売

愛知県新城市で開かれたラリーイベントでは豊田章男社長が自らFCVのハンドルを握りラリーコースを疾走。市販前にいち早く走行性能をアピールしてみせた。トヨタはFCVを当面は水素ステーションが整備される4大都市圏や、その周辺地域で販売する。

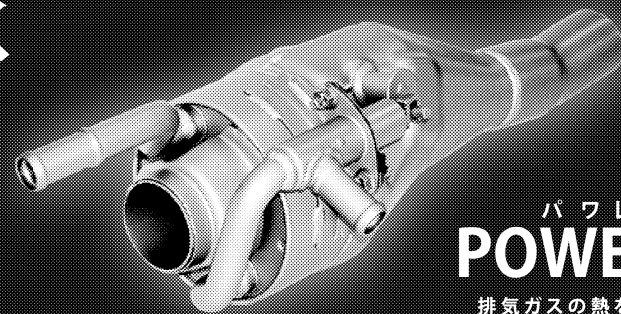
今や「当たり前」のクルマになった(加藤副社長)。HVも普及期に入っている。トヨタのHVの年間販売台数が100万台を超えるまでは発売から15年かかっている。

FCVも水素ステーション整備が課題となっていることもあり、本格普及期は20年代に入ってからとされている。トヨタは、その際にFCVを年間数万台規模での量産を目標としている。

## よい品、より安く

### 事業内容

- ◇自動車部品製造  
排気系部品、ボデー骨格部品、内・外装機能部品、足回り部品、燃料系部品
- ◇情報環境機器部品製造
- ◇専用溶接設備、金型製造



### パワレヴ POWEREV® (排気熱回収器)

排気ガスの熱を冷却水に伝えることでエンジンの暖機を促進させ、燃費と暖房性能の向上に貢献します

### フタバ産業株式会社

愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地 TEL 0564-31-2211  
URL <http://www.futabasangyo.com/>

宇宙船のシートをつくる。  
そんな日が来るかもしれない。



内装システムのリーディングカンパニーとして、トヨタ紡織の乗り心地に対する取り組みは、乗用車の世界から、モータースポーツ、鉄道、そして家の中まで、いろいろな空間の快適に広がっています。

想像は、いつか実現できる。  
私たちの挑戦はまだ続きます。



シート ドアトリム エアクリナー  
ハイブリッドシステム用モーターコア構成部品  
北陸新幹線グランクラス搭載シート  
住宅用内装面装飾材「ヌノカベ」

トヨタ紡織

世界の道で、乗る人の「うれしさ」を  
学び続ける。



そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。  
そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。  
そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。  
アイン精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。  
どんな環境でも満足してもらえる一台のために、このテストコースでコンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えあげていく。  
すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、乗る人の「うれしさ」を学び、求められているものをカタチにするために。

**AISIN**  
One Team, Best Future

アイシン精機株式会社  
〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 [www.aisin.co.jp](http://www.aisin.co.jp)

**TOKAI RIKI**

触れた瞬間、クルマとの対話が始まる。

感動をかたちに

株式会社 東海理化

〒480-0195 愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目260番地  
Tel. (0587) 95-5211 Fax. (0587) 95-1917  
[www.tokai-rika.co.jp/](http://www.tokai-rika.co.jp/)

今日も、クルマが、走っている。  
地球の果てまで、クルマが、走っている。

もう、これ以上、自然を汚してはならない。  
もう、この惑星を傷つけてはならない。  
クルマが、地球とともに生きてゆくために。  
そこには、デンソーの環境テクノロジー。  
たとえば、ハイブリッド技術や、エンジンの効率アップ、  
バイオなど、クリーンエネルギーの開発。  
地球がずっと、つづくために。

クルマがずっと賢くなるために  
**DENSO**  
[www.denso.co.jp](http://www.denso.co.jp)

この惑星を、技術で守りたい。

**TOYOTA SOLUTION**

エアジェット織機  
コンテナ搬送AGVシステム  
フェークリフト  
H/V用DC-DCコンバーター  
PHV用EV用充電システム  
ゲームアコン用コンプレッサー

**KEY COMPONENTS**

**Mobility**

RAV4  
Vitz

自動車用  
産業用エンジン

**INNOVATE THE FUTURE**  
世界の人の豊かな生活と温かい社会づくりをめざして。

**株式会社 豊田自動織機**  
TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION